

新居浜市で「電波の利活用セミナー」を開催

《愛媛県内の5G実証実験を中心に紹介》

四国総合通信局(局長:川村 一郎)は令和元年7月25日(木)、情報通信研究会(※)と共催で愛媛県新居浜市にて「電波の利活用セミナー」を開催し、ICT関連企業、地方公共団体などから200名が参加しました。

本セミナーでは、愛媛県内の第5世代移動通信システム(5G)の実証実験を中心に紹介し、5Gが、「超高速・大容量」、「多数同時接続」、「超低遅延」といった特徴を持つ次世代の移動通信システムであり、2020年の商用サービス開始まであと1年と迫っていることから、様々な分野での活用が期待されている5Gの最新動向について理解を深めていただくために開催したものです。

【講演1】「5Gの実現に向けた取組～地域での5G早期実現に向けて～」総務省総合通信基盤局電波部移動通信課 課長補佐 大塚 恵理

大塚講師からは、地域での5G早期実現に向けた総務省の取組について紹介。5Gという新しい技術を決め付けて使うのではなく、有線・無線の最適な技術を用いて、様々な立ち位置で地域社会のパートナーと手を組んで、サービスを構築し、新しいビジネスを組み立て、地域の課題解決や持続可能な社会経済の発展を図るのが重要とし、これから企業・自治体・コミュニティ・研究機関・通信事業者等の真価が問われるだろう、との指摘がありました。

【講演2】「5G利活用アイデアコンテスト総務大臣賞受賞アイデアと総合実証試験の概要」愛媛大学大学院理工学研究科 教授 小林 真也 氏

小林講師からは、総務省が地域社会の課題解決等に向けた5G利活用のアイデアを募集したコンテストで総務大臣賞を受賞した、造船業の労働環境を改善するアイデアについて紹介。5Gの特徴である「超低遅延」の定義について、英語では「Ultra-Reliable(高信頼)」も含まれていることや、5Gの特性は地域課題の解決に役立つのであるから、地域・地方にこそ早期の整備が必要であるとの指摘がありました。また、自身が造船所の地上高60mにあるクレーンの運転台に上ったときの経験談を踏まえた話がありました。本アイデアは、今年度の総合実証試験の実施が予定されており、その構想についても紹介されました。

【講演3】「愛媛県松山市におけるローカル5G FWA実証実験～5Gを活用した4K/8K映像伝送～」株式会社愛媛CATV 専務取締役 白石 成人 氏

白石講師からは、本年6月中旬から7月初旬にかけて松山市内で実施したCATV光ファイバー網とローカル5Gを組み合わせた4K・8K映像伝送の実証実験について紹介。本実証実験の成果が実用化すれば、ケーブルテレビの加入時の引き込み線工事が不要となり、低コストでのサービス提供が可能になることや、ローカル5Gは地域に与えられた「資産」であり、ローカル5Gをいかに活用していくか、地域間競争も始まるのではないかと指摘がありました。

セミナー後のアンケートでは、「5Gの実証実験の紹介が興味深かった。」、「もっと5Gに関するセミナーを開催してほしい。」などの声が寄せられました。

四国総合通信局は、地域課題の解決や地域産業の活性化に役立つ5Gの利活用の推進に取り組んでまいります。

(※) 情報通信研究会は、愛媛県新居浜市において情報通信に関する勉強会及び企業交流の場を提供することを目的として、平成22年6月に株式会社ハートネットワークを中心に発足した研究会です。本セミナーは、「令和元年7月度情報通信研究会」としても開催したものです。

【お問い合わせ先】 無線通信部 電波利用企画課 電話 089-936-5071



主催者あいさつの様子



セミナー会場の様子